



精神分析療法の経過とロールシャッハ・テストの変化 - 第2報 -

中野, 良平
本多, 雅子

(Citation)

神戸大学医療技術短期大学部紀要, 3:133-140

(Issue Date)

1987

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/80070058>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/80070058>



精神分析療法の経過とロールシャッハ・テストの変化

— 第2報 —

中 野 良 平¹, 本 多 雅 子²

は じ め に

第1報¹⁾においては精神療法による患者の変化とロールシャッハ・テストの変化を「強迫症状の基底に抑うつ気分が存在する症例」を用い、ロールシャッハ・テストの反応の量的分析を中心に検討・考察した。

今回の第2報においては個々の反応の流れを追いつながり、その内的世界の変転と精神療法の経過との関連を検討・考察してみたい。

治療経過とロールシャッハ・テストの変化

第1報において述べたごとく、13年間の治療中に10回におよぶロールシャッハ・テストを行ったところ、第4回目になって急に反応数の増加を示し、顕著な変化が認められている。また第9回から第10回にかけても反応数の増加を示し、第10回目には患者自身から「最も私らしい反応ができた」との感想が述べられている。

第4回目急に著明な変化を示しているのは第1報において報告した通り、治療者側に重要な変化が起きたからであった。つまり、第3回と第4回との間において治療者が、当時、その教育分析者であった故山村道雄先生の精神分析の現場を初めてみせて頂いたという貴重な体験をしていたからであった。

第9回と第10回においても反応数が増加して

いるのは治療者の腕が徐々にあがってきたため治療の進展がみられ、それなりに自己表現、自己認識が明確になり抑制がゆるんだ結果と考えられる。

従って、本報では第3回、第4回（片口法）第10回（クロッパ法）のロールシャッハ・テストをとりあげて検討・考察してみたい。

1) 第3回のロールシャッハ反応とテスト所見

表-1は3回目のロールシャッハ反応の一覧表である。テスト当日、患者は少し硬い表情で入室し「テストよりも先生（検査者）にうかがいたいことがいくつかありまして…」と、治療場面でのこだわりや疑問などを語っている。それはまたテストへの間接的な抵抗ともとれる。

テスト所見：緻密な対象への迫り方に、すぐれた感受性や吟味力が示されているが、生産性には結びついていない。内的生活に没頭していて知的能力も精神力もすべてがそこに投入されている状態であり、外界への適応は低下しているのではと思える。人間像を取り上げてみても現実的な生き生きとした人ではなく、すっぽりとマントを着て寒い北風の中に立っていたり、ぶつかって火花を散らすかと思う間もなく離れて行く気配があったり、骸骨であったり人形であったり、よちよち歩きで足もとはおぼつかな

1. 神戸大学医療技術短期大学部

School of Allied Medical Sciences, Kobe University

2. 神戸大学医学部精神科

Department of Psychiatry, Kobe University, School of Medicine

1987年7月31日受付, 同年9月30日受理

く、外界はごちゃごちゃした悪魔の世界と映っている。せめて、細かくはっきりしたものを振り所にして全体をまとめ混乱をさけようとしているのであろう。この人の情動の激しさが客観的にはうかがえるが、とすると知的に象徴化してしまうので肉体的緊張感は弱まらない。

2) 第4回のロールシャッハ反応とテスト所見

表Ⅱは4回目のロールシャッハ反応の一覧表である。この日「このところ少し調子が悪いのです」と言いながらも、やや高揚した気分すらみうけられる状態でテストを受けている。態度にも硬さは感じられない。

テスト所見：知的活動性が、かなり認められる。余り観念的・抽象的になることなく実際の事象の把握が出来てきている。しかし、前回に較べて統合が悪くなり、刺激優位の傾向がみられるようになった。つまり、やたらに断片的・即断的に外界の刺激に反応してしまい吟味不足の感じが強い。情緒的には、やはり回避傾向が強くなり知性優位である。

ただ今回は純粋な色彩に対する反応や性的な事象に対する感受性・問題意識がうかびあがってきているように思われる。全体に不安定であるが、反面、強迫的な傾向が多少とも減少したのではないかと考えられる。人間像にもわずかずつながり実在感が伴うようになり、幼児的な女性像や不自然にいかめしく大きい男性像が認められる。

内面への没頭傾向が緩和され、かなり現実との結びつきを取り戻しているが、陰影を回避しているように、受情欲求にふれるような関係に対しては、まだまだ制止が働いているとみなければならぬ。

3) 第10回のロールシャッハ反応とテスト所見

表Ⅲは10回目のロールシャッハ反応の一覧表

で、患者が「最も私らしい反応ができました」と語った治療終結に近い頃のものである。この頃には、長年にわたる症状を抱えた生活の中で家族に与えた数々の影響について案じながら、具体的に、娘にどうしてやればいいのか、といった療育相談的な質問を検査者に投げかけたり、生活臭の強い話題を検査者に持ちだしたりしており、テストへの緊張はうすれ、しばしば母親らしい態度をみせている。

テスト所見：3回目から4回目にかけて変化をみせた諸点については、以後、10回目まで大きな変動はみられない。しかし、10回目では、個々の反応の単位が明確となり、吟味力の回復が顕著である。ある程度の距離を保って刺激を選択しつつ、それでも気になる場合には、刺激から一時、目をそらして背景に視線を転じている。思考に少し柔軟性が出てきたものと考えられる。反応内容の表情に対して過剰なほど意味づけ説明がなされることからこの患者の対人的過敏さがうかがえる。その過敏さが人への接近をちゅうちょさせてしまっている。4回目で見られた幼なく頼りない存在としての自己像も10回目では「赤ちゃん」となり、下から支えられ上から引張ってもらって始めて山を登り得ることが認識されている。殴り合いとまではいかないにしても口論や批判といった形での感情表現はできそうなくらいまでは未熟な感情のたかまりがみえだしている。しかし、一旦はとけかけたかにみえた外界に対しての自然な情動流出の流れは、再度、知性化によって凍結されており、性への関心も示しだしてはいるものの、それも知性化による抑圧傾向が強いようである。

つまり、非常に表層的な部分での自我機能の自由さ、柔軟性は強まっているものの、情緒の解放に際しての恐怖感や緊張感が、それ以上の進展を阻んでいるとともえられる。それほどに、この患者のこれ迄の生活における情緒の抑制は強固なものであったようである。

以上のように、ロールシャッハ・テストの上では、根強く変化を拒む部分と、少しずつ動き解放される部分とのあることが観察された。

表－I 3回目ロールシャッハ反応一覧表

Card. No Resp. No	Responses T.	Position	Performance	Inquiry	Scoring
I	1 30" 1'35"	△	風が吹いてマントがちっているみたい。 パッと両方がしゃべりかけている。 ソ連の寒い北国、人物は老人。	あごが出ていて、ひげがある。 そり気味の姿勢。	W M, mH
II	1 5" 3'	△	これは手をパッと叩いたんです。 上は顔の表情ですけど嫌な感じ。 一方が舌を出して嫌な…。 下はパッと衝突して火花が散ったような、走 ってきて、でもこの細い線はフーと触れて、 それから離れて尾をひうていくような。足は ヨチヨチ歩くような感じの足で……。	女性、年寄りではない。 おどけて遊びごとをしているのかな…。 ボンッとした着物をきて余りいいもの じゃない。	W M, H
III	1 5" 2'	△	これは火の玉がふわーと浮んでいるような… この二ツがガイコツ。 中身のないやせこけた。真中のはりボンか蝶 ネクタイ。下のこはコマか何かしがきりに 廻っている。この浮いているリボンを二人が 受けて遊んでいるいうかんじ	森の中で、おばけが遊びごととしている。 バレー靴をはいて…。 女性みたい。	WM, Fm, CF (H)Fire (P)
IV	1 7' 2	△ △	ライオンかヒョウのはぎとったあとの皮、下 が足で上が頭で、ここが手で。 それとゴリラがのしのしと後姿みせながら歩 いて行くかんじ。	ヒョウのマンダラもよう 足でふんずばっている	W Fc Aobj P W FM A
V	1 3" 35" 1'45"	△ △	これは、この辺が嫌いです。線の細いのがボ キッと折れそうな… 上がやたらに重くて… 動物、これは前向きのような感じがします。 上は頭で。こっちの右の方が濃いかんじ、同 じでない。全体が嫌いです。	鳥の一種、羽をひろげて チョコチョコ前へ進んでくる	W FM A
VI	1 7" 1'50"	△	これはちょっとわからない。 ちょっと子供みたいですけど… ロケット、下からいれものから上のがス ッとぬけ出すみたい…。ロケットでなく生 きている動物がとんでいく。ヒゲ、上が頭、 口、目があってスッとぬけていく瞬間みたい	下の容れ物、器のような感じがスッと ぬけていく。	W FM A
VII	1 8" 1'10"	△	これは置き人形。子供の玩具の人形をピアノ の上に飾っていますから、 口、額、向い合って喋っているよう、下は台 ですね、そのくらいですね、かわいいね	女の子	W F→M (H)
VIII	1 7" 2'	△	これは北海道の何とかいう熊です 冬眠している日本産の熊。 氷山の冷たいかんじの所に登っていく感じ。 右の方は早く登っていく、左の方はまっすぐ 上をみている。小首をかしげているのがかわ いい感じします。 前足、後足つんばって…。	この上のが氷のかんじ 氷のつらら	W FM, CF A (P)
IX	1 5" 2'20"	△	これは小人の国のおちさんが二人でラッパ吹 いている。手のような手でないような…。 高い所で…。サーカスの感じ。劇場で見てい る。上の系統の色は嫌いだけれど、下のうすい 色は好きです。 この色のアサガオを今年も植えようか。	曲芸しているのを 下で支えてやっている	WM, FK H
X	1 25" 2'	△	全体にみて嫌な感じ。 悪魔の世界。悪い相談している。 ランプを両方にかざしてやっている。 足をふんばっているような、ごちゃごちゃ 色が使いすぎである。	歯をむき出している いやみな顔	WM, (H)

表一Ⅱ 4回目ロールジャッパ反応一覧表

Card No Resp. No	Responses T.	Position	Performance	Inquiry	Scoring
I	1 30" 1'40"	△	やっぱり人間にみえました。 サーカスの人間、向い合って曲芸している。 年寄り、老人の曲芸。	おちさん トンビ（マント）はおってる	W M H
II	1 5" 2 2'30" 3	△ △ △	これは手をパッとたたいた時 顔の表情。赤い色の感じが嫌なかんじ。 雪だるま、子供が作ってました アポロ	顔の感じがふつうでないもの同志 嫌い、いやです。和服のとんび着てる。 このかたち。 ここがロケットにみえる	W M H P D ₃ F((H) S F Ob _j
III	1 5" 2 △ 3 △ 4 △	△ △ △ △	子供の頭のちょうちょ 火の玉 顔、腰、手をさげている、ハイヒールをはいて。 子供の逆とんぼり。	女の子のつけるリボン 火の玉 体操している 子供っぽいダンスしてる、バレエシューズはいて	D ₃ F Ob _j D ₁ m F Fire D ₂ M H P D ₁ M H
IV	1 5" 2 △ 3 △ 4 1'	△ △ △ △	動物が前向いている。マントヒヒ T. V. で出てくるあれ 似てる。 これは影、前へ進んできた時の。 木 足が立っている 動物が進んで行く感じ	手で、肩いからせて、顔 太い木にみえる 人の足 動きが感じられる	W FM, FKA D ₄ F PI dd M Hd dr FM A
V	1 7" 2 △ 3 △ 1'	△ △ △	目と鼻で鳥…こうもりか何か 足が、ねずみの足に似てるなど、 やさしいうんですか、メス、という感じ 出てて	羽からいうと、こうもりですね …… 顔ですね、人らしい…	W F A P d ₃ F Ad d ₁ F (Hd)
VI	1 5" 2 △ 3 △ 4 △ 5 1'50"	△ △ △ △ △	注射器の液の… へびが二匹、向い合っていて、…ひげ… 足がべちゃんと壁にひっついてる ヨチヨチ歩き足 水鳥が空とんで羽のぼしている	液が中に入っている …… …… …… いかにも小さくて	dr F Ob _j dr F Ad D ₃ F A db F Ad D FM A
VII	1 7" 2 △ 3 △ 4 △ 2'	△ △ △ △	顔、鼻、犬、犬が口あけて、目、 うさぎの耳、全体がうさぎみたい 人形、子供の顔 海にある岩石、その上に生き物が乗ってる かんじ	右はぼけっとしてて、左はほえてる （とり消し） …… 何か乗ってるのか、犬か……	D ₄ FM Ad D ₁ F (Hd) D ₃ F N
VIII	1 3" 2 1'20"	△ △	上の方へ登って行く、いかにも今のぼって行く ような…白熊か何か、氷山に登って行く、 こっちの足つんばって 前に朝顔の花でしぼりを作ってそれに色の具 合が似ている	…… ……	D ₁ FM A P D ₂ CF Art
IX	1 5" 2 △ 3 △ 4 1'30"	△ △ △ △	口からパッと水を吹き出して 子供が水鉄砲してるのか 人の上に人がのって、支えて持ちあげてる 五本ございますね、爪の先のように、この前は 気がつかなかった 柿の種	今みたら、笛吹いてるかんじ この下のが支えている 動物の爪みたい 割って見たところ、理科でみた。	D ₃ M H D ₁ M H db F Ad d ₄ F PI
X	1 8" 2 △ 3 △ 4 △ 5 △ 6 △ 7 △ 8 △ 9 △ 10 3'25"	△ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △	ここと、ここ、同じようなものございまして 何かしてる 甘日ねずみ……小さな…… 生き物が、すーと、こっち向いて行っている 年賀状の版画の馬 うさぎの顔 くじゃく ぞろんと生き物がネグリジェ着てる カットグラス 動物 ハンガー 全体は色んな動物が寄り集ってるかんじ	くもですね 顔と尻尾、ねずみのかんじ ……動物でしょう …… 耳と目、鼻があります 尾長鳥でしょうか やはり人間ですね 乾杯しています おなかとせなか ……	D ₁ F A D ₁₃ F A D ₉ FM A D ₂ F (A) D ₃ F Ad d ₁ F A D ₆ F H D ₇ M Hd Ob _j D ₁₀ F A D ₅ F Ob _j

表一Ⅲ 10回目ロールシャッパ反応一覧表

Card No Resp. No	Responses T.	Position	Performance	Inquiry	Scoring	
I	1	15"	△	マントきて向い合せに、パッとみて踊ってる みたいだから、生きてる感じが出る足でふ みしめてる…	ここに手がありますね トントンとあがって行ってるかんじ ………	D ₂ M H
	2		△	ここは肛門の…お尻うか	首がないのかな…ウェストにバックル	d ₅ F At
	3		△	一人の人にもみえます	みたい、ここが足	D ₁ S F H
	4	2'30"	△	ハトの糞、ここにハトがいます	家でハトが糞おとすので	d _r F, CF A
II	1	5"	△	やっぱり、この顔はきらい、下品なかんじが して、ー。ダンスしてるみたいですね、 ここが足元からかち合って火花散らしている 感じ。	手を合せている	W M, Csym H
	2	3'18"	△	この三角形のあがって行ってるかんじ	何でしょうね	S Fm Obj
III	1	5"	△	向き合ってますね	胸があるから女の人、お尻があってハイ	D ₈ F H→P
			△	これはグルグルまわってるかんじ	ヒールはいてる。	D ₃ mF Obj
		1'	△	逆とんぼりしているような…	何かまわってるかんじ 人かしら…子供かしら…	D ₂ M H
IV	1	7" 39"	△	マントヒヒここが足でこっちに向かって来て いる	顔あって…手ひろげてる 足…	W FM A
V	1	9" 50"	△	これ足で耳で…こうもちろひろげてるいう かんじ	これは女性的な弱々しい かんじですね	W FM A P
VI	1	5"	△	これ足、これお尻でパッとひろげるとこで すね	手と足 この下がお尻ですね 動物の	D ₁ FM A
	2		△	この上は別個のもので、ひげのある…へびで もないと…これも手足ひろげている	…動物のようだけど	D ₂ FM A
		1'34"		見たところパッと開いたようで気持ちがいい		
VII	1	10"	△	ベビー、赤ちゃん、子供っぽくなりましたね	この顔のかんじですね	D ₃ F Hd
	2		△	ここは狼	左の分がきつい顔、お尻とお尻をつき合	d _r FM A
	3	2'27"	△	この空間が花を活けるつばのように	せとうかんじ………	S F Obj
VIII	1	5"	△	これのぼって行く、熊が…足ふんばって徐々 に上っていく	ふっと首かしげてるかんじ、引張っても らって、支えてもらって上ろうとしてい るところ。	D ₁ FM A P
	2		△	ここは二ツのものが向い合ってるように		D ₂ FM A
	3		△	サーカスか何かで逆とんぼりしているように	やっぱり動物みただけど、どっか	D ₄ FM A
	4		△	ここにも二ツのものがあって上って行ってい る	お尻地面につけて、	D ₃ FM A
	5	3'25"	△	ここはあばら骨のように	さあ何かしら、生き物、動物… 目が見える この空間のところ	D ₅ F Atb
IX	1	30"	△	笛吹いてるおちいさん道化師のような	ひざをついている	D ₂ M Ha
	2		△	この生き物、尻尾がここに	①を手で支えているのかな	D ₁ F→FM A
	3		△	赤ちゃんにみえる	赤ちゃんの大きな頭	D ₆ F Hd
	4	2'35"	△	山の中…深山の洞窟のように	……この間のところ	S F N
X	1	5"	△	これとこれがチャンバラしてる いがみ合って、ケンカしてるのかな	虫かしら……かぶと虫	D ₁ FM A→P
	2		△	ここも虫にみえる、二匹いる	……足と……目がある	D ₄ F A
	3		△	ここに二人の人がいる、手と手をつないでる	お互に支えてやっている	D ₁₇ M H
	4		△	これはライオン	こう横向きになって	D ₁₀ F A
	5		△	この動物が③をついているようにみえる	ここ、手みたいので……	D ₆ FM A
	6		△	これもライオン	走りかけているのかな	D ₁₁ F A
	7	3'25"	△	うさぎ	目と口と鼻、耳のことは、みていたら 何か髪の毛みたいにもみえるね	D ₅ F A P

第3回のテストには、それ迄の本患者の内的世界が顕われている。すなわち、激情が抑圧されて、それが知的に防衛されるという強迫症者の特徴である。治療経過の中でも「私は誰に対しても憎しみを感ぜません。皆、好きです」などと反動形成的言辞がみられている。

さらに、テストに顕われている“死の世界”（骸骨など）“生命のない世界”（人形など）そして外界は“悪魔の世界”などというのは、この期間に報告された夢にも顕われている、死体、糞便、汚物、廃物と対応している。これらは本患者の訴える、「季節や時の移り行く事、虚ろい行く事物を写真にとらずにおれない事、何年も前の事でも、うまく写真がとれなかった事を思い出すと食事ものどを通らない思いをする事」などと共に、正に V・E・v・Gebssattel のいわゆる “Die Störungen des Werdens und Zeiterlebens”（生成と時間体験の障害）²⁾という強迫症者の世界である。彼の説く所を要約すると「強迫症者の時間的構造を見るに、根底に内的時間生起の硬直がある。しかし、これだけではうつ病者や離人症者から強迫症者を区別することはできない。強迫症者の現存在は非現存在化の方向をとり、糞便、汚物、毒、憎悪すべき人物、屍的な物の姿で現象し、現存在の形態を解体する。しかし、それは心像や比喻の中でのみ現われる。かくして強迫症者は自己の影と闘い、形態を解体する力と闘う。彼は自分自身の根底にある脅迫的な作用に抵抗するけれども、何が一体、己に生起しているかを知らない。」

人間学派の Gebssattel が「自己の影と闘う」とか「何が一体己に生起しているか知っていない」と述べている所は、精神分析学派では、それが何であるかを分析・解明してみせる。

精神分析学派では強迫現象の基底に激しい攻撃衝動を考えているが、攻撃的破壊的衝動、肛門期的反抗などに対して防衛機制が働く結果、強迫症状を呈してくるとする³⁾。なお、分離不安

は口唇期の問題であるが、依存、甘え、抑うつ、なども口唇期的特徴である。

Anna Freud⁴⁾によれば、持物にしがみつくのは、(1) 母親にしがみつこうとする分離不安がその基底にある。(2) 人間に対する敵意、死の願望などへの反動形成として、人間、物質、何物も捨てることができなくなる。(3) 貧困化への不安の現われ。とみなしている。

これらが第4回のテストでは、余り観念的、抽象的にならず、実際的な事象の把握が可能となり、初めて、色彩反応、性的事象も認められ、人間像にもわずかながら実在感が認められるようになっていく。この様に防衛がゆるんだ結果、統合が悪くなり刺激優位の傾向も認められ強迫的傾向がやや減少してきているが、なお、情緒的回避傾向が強く、知的防衛優位の態勢はなかなかゆるがない。陰影反応を回避するところにも愛情欲求への制止が顕われている。

これらの傾向は当然、治療場面でも顕われており、この期間の始めの頃はカウチの上で、しばしば、涙を流している。また、第3期迄は「誰にも憎しみを感ぜません。皆、好きです」といっていたのが、「イライラして子供に当たったり、先生が憎たらしいなって、周囲の者も皆憎たらしいなって」「先生が憎らしくなると主人まで憎らしくなる」などと語られる一方、ときには笑顔もみせながら、わずかながら柔らかな女性らしさも認められている。「会合に出ても、この頃は楽にはいりこめるようになりました」「先生に何かいわれたので言えなくなったけど、女の子を怒ったら、ものを言わなくなるから、それと似ている。自分もまだ子供なんかなあ」などと語っている。

第10回のテストでは、反応の単位が明確化し、吟味力が回復しており、思考に徐々に柔軟性が認められている。しかし、対人過敏性は依然として存在し、情動の解放に際しての恐怖感、緊張感はなお認められる。自然な感情表出の流れが再度知性化で凍結されそうになっている。これは自我が一時退行的となっていたのが再度発展的となり自律性を身につけようとの努力とも

解される。リビドー理論で言えば、口唇期依存性から肛門期自律性へと発達してきたともいえ、そのことは反応内容にしきりに肛門的なものが現われていることによって推測される。

すなわち、例えば、肛門、ハトの糞、そして「お尻」が数ヶ所に出てきている。再度「ひきしめよう」とのことであろう。

治療場面でも「小さい頃、病気になったら大事にしてもらうて、治ったら、がらっと元に戻る。病気のまゝやったらよかったのと思った」と病気に逃避して依存的になっている自覚が語られ「私も幼稚園やし主人も幼稚。幼稚な者同志が寄っとるから」とこれ迄の幼稚性への自己認識が獲得されてきている。

お わ り に

第1報においては全般的な検討・考察を行ったが、本第2報においては第3回、第4回と第10回のロールシャッハ・テストとを対比して検討・考察を行った。

第1報の量的分析を主とした考察では出てこなかった本患者の精神内界の精神分析療法による変転の有様が、強迫症者の内的世界の実態が精神分析学的に検証されたと考えられる。

参 考 文 献

1. 中野良平, 本多雅子: 精神分析療法の経過とロールシャッハ・テストの変化, 一第1報一, 神大医短紀要, 第2巻, 1986
2. Gebattel, V. E.: Prolegomena einer medizinischen Anthropologie, 1945, Berlin
3. Rado, S.: Obsessive Behavior: American Handbook of Psychiatry, 2nd. Edition, III—ch. 9., 1974
4. Freud, A.: The Writings of Anna Freud. Vol. IV. International Univ. Press, INC. New York. 1968
(中野良平・黒丸正四郎訳: アンナ・フロイト著作集, 児童分析の指針(上), 岩崎学術出版社, 1984)
5. ロールシャッハ, H.: 精神診断学(片口安史, 他, 訳) 金子書房, 1979
6. 中野良平: 強迫神経症, 青年期の精神療法, 金剛出版, 1982

The Progression of Psychoanalytic Process and the Transition of Rorschach-Responses.

—Second Report

Ryouhei Nakano¹ and Masako Honda²

ABSTRACT : The first part of our study was reported mainly on the results of quantitative analysis of Rorschach-Responses. This study focuses on the results of qualitative analysis of Rorschach-Responses and the progression of Psychoanalytic process. In the 4th, 9th and 10th Rorschach-Responses, there were seen significant alterations.

As the next step, qualitative analysis of the results of the 3rd, 4th and 10th Rorschach-Responses is to be performed. In relation to those analyses, alteration of this patient and her psychopathology are also studied. The 3rd Rorschach-test reveals typically “the world of obsessive neurosis”, that is, repression of rage and other impulses, intellectualization, reaction formation and so on. It is “the world of death, decay and decompose” and appears as faeces, mud, dirt and corpses. Those break up the form of “Dasein” (Heidegger, M.).

In the 4th Rorschach-test, units of responses become clearer and securer and the ability of reality-testing recovers considerably. Obsessive-control-ability becomes again intense. This phenomenon reveals the underlying obsessive psychopathologic aspect.

Key Words : Progression of psychoanalytic process,
Transition of Rorschach-Responses,
Qualitative analysis of Rorschach-Responses.

1. School of Allied Medical Sciences, Kobe University

2. Department of Psychiatry, School of Medicine, Kobe University